５年生保護者様

子どもたちの未来のために　第５号

～選べる道を増やすには～

令和２年　５月　８日㈮
港区立赤坂小学校
校長　齋藤　恵
５年学年主任　保坂　司

伸びるのはどんな子⑤～ヘックマン博士（２０００年にノーベル経済学賞受賞）の実験～

保護者会で私がよく話すことです。有名な実験です。兄弟姉妹関係で私が担任をしたクラスの保護者のみなさんは聞いたことがあるでしょう。とても重要なことですし、この考えをもとにして日々の指導を行っています。

グループＡ
３歳児に２年間毎日、午前中幼稚園に通わせる。初歩的な幼児教育や遊び中心の活動をさせる。
（勉強や知識の習得でないのがポイントです。）

IQ は著しく向上。

グループＢ　３歳児には特に何もしない。。

Ａグループとは、IQ で大きな差をつけられた。

しかし、差は少しずつ縮まり、８歳になるころにはＡグループもＢグループも IQ では差がなくなった。幼児教育は学力向上の観点では、ほとんど意味がないという結果になった。ところが…。

追跡調査：その子たちが４０歳になったときの状況を調べたところ、驚くべき差異が表れた。

グループＡ（４０歳）

高校卒業率	…高い
収入	…多い
持ち家比率	…高い
離婚率	…低い
犯罪率	…低い
生活保護受給率	…低い

グループＢ（４０歳）

高校卒業率	…低い
収入	…少ない
持ち家比率	…低い
離婚率	…高い
犯罪率	…高い
生活保護受給率	…高い

＊Ａと比較して「低い」「高い」ということです。

ヘックマン博士の結論

「幼少時において重要なのは、IQ のような認知能力（テストや点数で計れる力）ではない。主体的に行動する力、計画的に行動する力、自己肯定感の強いこと、他者を信頼する力、感情をコントロールする力などの非認知能力である。」

この考え方は、小学校教育にも当てはまります。つまり、習得した知識・技能以上に、知識・技能を習得するために発揮した力、育てた力、獲得した力が重要であるということです。勉強ができるからといって、態度面を改善しなくてもよいという考えは、将来に渡って禍根を残すことがご理解できるでしょう。反対に、態度面や生活習慣がよければ、高学年以降も学習の取り組み方がいいので、学力は伸びていくのです。

「本当の学力とは、学んだことを忘れた後に残った力である。」

アインシュタイン博士の言葉です。非認知能力の大切さを、アインシュタインはもっと以前に説いていました。『学校で学んだ知識や技能はいつか忘れてしまう。しかし、知識や技能を得るために育てた力～努力、忍耐、協力、創意工夫、リーダーシップ～は一生残る。』のです。それが、子供たちを一生支える力になるのです。